

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271402416
法人名	社会福祉法人 新切福祉会
事業所名	グループホーム ゆうか
訪問調査日	平成 19 年 9 月 8 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 29 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271402416		
法人名	社会福祉法人 新切福祉会		
事業所名	グループホームゆうか		
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市有家町尾上2896-2 (電話) 0957-82-6272		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年 9月 8日	評価確定日	平成19年 10月 29日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10人, 非常勤 8人, 常勤換算	13.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	木造コロンアル葺 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 1日当たり100円
敷 金	有() 円	<input type="radio"/> (無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成 19年 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 87.5 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科医院、永田内科泌尿器科医院、池田病院、上田歯科医院、吉田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人生の最期を一緒に過ごす場所として、利用者にとって第二の家と思ってもらえるような支援をしたいという思いから、「家庭のくつろぎと家族のいたわり」という理念のもとケアを展開しており、敷地内の保育園児と合同の運動会や学生の体験学習の受け入れを行うほか、管理者が地域の消防団に入り協力体制を築くなど、地域の一員として、積極的に交流を図っている。

また、自然に囲まれた建物の傍には利用者が耕す畑があり、収穫の品が食卓をにぎあわせ、ホーム内の家庭的な雰囲気を壊さないためにと考え、理念や事業所の概要等必要な書類の掲示は、玄関脇に備えられたタッチパネルを活用し閲覧できるようにしている。また、ホームページを開設し個人情報保護への配慮から家族だけのパスワードを設定して、遠方の家族にも利用者の日々の暮らしぶりを撮影した写真が閲覧できるようにしている。

管理者をはじめとする職員と利用者は、援助する側、される側という関係ではなく、利用者が調理や手芸を職員に教えるなど、お互いに支えあっている様子が窺え、職員は、人生の最期を一緒に過ごす家族として「今」を大切に考えており、毎年、利用者それぞれの誕生日にはケーキと花を贈り、今生きていることを共に喜び、お祝いをするなど、理念に沿ったきめ細やかな、寄り添うケアを目指して努力しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部5)
	外部評価における、改善点やアドバイスを受けとめ、ケアのあり方等を検討し、職員一丸となって、ホームの理念に沿って、これで十分ということなく、さらにきめ細やかな対応ができるよう常に利用者本位に考え、努力をしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価について、意義の共通理解に努め、自己評価には職員が全員で取り組んでいる。また、自分たちだけでは気づかない部分について、外部評価を通して、常によりよいホーム作りを目指そうとする姿勢が見受けられた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族の代表や民生委員、福祉事務所職員等の参加により、運営推進会議を2ヶ月に1回の割合で開催し、事業計画や行事の経過報告、外部評価への取り組み状況の報告などを行っており、参加者から出される様々な意見や提案をサービスの向上に役立てようと努めている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用者家族に向けて「ゆうか便り」とともに、利用者それぞれの状況等を手紙で報告している。また、2ヶ月に1度、受診の状況や金銭管理についても報告をしている。また、ホームページにおいて、個人情報保護に配慮したパスワードを設定し、日々の暮らしを撮影した写真を掲載して、家族がいつでも手に取るようにホームの状況を確認できるようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年、小・中・高各学校の体験学習を積極的に受け入れ、ホームを学習の場として活用してもらっている。また、保育園の行事や近隣の福祉施設の夏祭りに招待を受け交流を図っているほか、地域のお祭り際には、お神輿の立ち寄り所になり、地域との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人生の最期を一緒に過ごす場所として、利用者にホームを第二の家だと思ってもらえるような支援をしたいとの願いをこめて「家庭のくつろぎと家族のいたわり」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のもとに、援助する側、される側という関係性を作らないよう努め、ケアなどについて気になることがあれば、管理者と職員はその都度話し合いを持ち、理念の共有ができるように取り組んでいる。また、日々寄り添うケアを目指して、勉強や会議における話し合いを行うことで、管理者も含め職員同士で研鑽し合っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園の行事などに参加して交流を図ったり、ホームが地域の鎮守祭のお神輿の立ち寄り所になっていたり、地域住民との交流があり、また、毎年小、中、高校などの体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、自己評価には全職員で取り組んでいる。また、自己評価だけでは見えない部分があるため外部評価における意見を参考にして、更なるサービスの質の向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者家族や地区の民生委員、市の職員などにメンバーになってもらい、様々な意見をもらって、サービスの質の向上に役立っている。		

長崎県 グループホームゆうか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所や福祉事務所には日常的に訪れており、運営推進会議においては、市の担当者もメンバーになってもらうとともに、開催場所として市の施設の会議室を提供してもらうなど、積極的にかかわりを持つよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の家族に向けて、広報紙のゆうか便りと一緒に利用者一人ひとりの状況を書いた手紙を送付しているほか、2ヶ月に1回、受診の状況、金銭の出納状況等を報告している。また、ホームページを開設し、個人情報保護への配慮から、家族のパスワードを設定して、日々撮影している写真を掲載し、閲覧してもらるようにしており、遠方の家族には、いつでも見ることができると喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が訪問した際に、できるだけコミュニケーションを図るよう心がけており、また、意見箱を設置したり、管理者のメールアドレス等を公開したりして、苦情や意見が匿名でも出せるように工夫して、家族が希望や要望を出しやすい環境に配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は現在までほとんど行われていないが、万一異動が発生した場合には、できるだけ利用者への影響がないように配慮するよう考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、必要に応じて参加しており、復命書の作成や報告会等の機会を設け、他の職員へ伝達する機会を設けている。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指している職員には、管理者が講師として勉強会を開きサポートを行っている。管理者は、自らが積極的に研鑽に取り組む姿勢を示し、職員もケアの技術等について学ぼうとする意識が高いことが窺えた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームケア研究会に加入して、近隣地域のグループホーム同士の交流の機会を持ったり、それぞれのグループホームの取り組みなどについての情報交換を行い、自分達のケアの質の向上に活かすよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用を開始するにあたって、不安の強い利用者などについては、家族だけではなく利用者が信頼しているケアマネジャー等の同行で訪問するなど、利用者の不安を取り除くように関わりながら、ホームに馴染んでもらえるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念のとおり、援助をする側、される側という関係ではなく、共に共感し支えあう生活の構築を目指しており、調理や料理の味付け、手芸などを利用者にしてもらったり、職員が技術を教えてもらったりしながら、利用者職員が日々寄り添うような関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を日々の生活の中で聴き、できる限り尊重するため、寄り添うケアを心がけており、意向の把握が困難な場合は、日々の生活の中で利用者の観察や雰囲気から感じ取れることなどから把握したり、複数の職員で話し合い、利用者の意向について検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には、職員と計画作成担当者が十分に話し合い、家族や利用者の意見を聴き、その意見をできるだけ反映するよう配慮している。また、遠方に住んでいる家族へは、介護計画といっしょに意見書を送付し、できるだけ意見や希望を聴き取り、計画に取り入れるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、介護計画に基づいた支援が行われているかどうかのチェックをしながらモニタリングを行っており、定期的な見直しだけでなく、状況に合わせて、見直しが必要と判断した場合は、速やかに利用者本人や家族の意見を聴きながら、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームで複数の車両を所有しているため、利用者がそれぞれに、かかりつけ医の受診や買い物に出かけたり、自宅が気になるという利用者とともに利用者の自宅まで行き、しばらく一緒に過ごして戻ってきたりと、利用者の希望や必要に応じて臨機応変に対応して、一人ひとりを大切に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、長年かかっている主治医への信頼が厚く、顔をみると安心するという意見も少なくないため、利用者本人や家族の意向を把握したうえで、たとえ遠方であっても主治医への受診の際は、送迎などの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の利用者の受け入れに対する不安はあったが、以前、終末期の利用者に対して、他の利用者が励ましやいたわりの声かけに居室をたびたび訪問するなど、利用者同士が良い関係を保つことができたという経験があり、終末期のあり方について利用者本人や家族等と話し合い方針を共有し、医療機関なども連携しながら、その人らしい生活が最期まで送れるように支援するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、様々な場面で自分がその立場だったらどう感じるかを考え、職員同士で話し合いをしながら認識を深め、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの尊重に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活スタイルやリズムを把握し、その人らしい生活を送れるように、寄り添い、思いが分かち合えるような支援に努めている。また、職員はお互いにお互いのケアや関わり方を振り返り、利用者と共に家族のいたわりをもって接しようとしている姿勢が窺える。		

長崎県 グループホームゆうか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米を研いだり、野菜を切ったり、味付けをしたりと、利用者はそれぞれに自分ができることを役割として行っており、それぞれに作る楽しみ、役立つ喜びをもって一緒に料理したり、配膳をしたりしている。また、気候の良い時はみんなでおいごりを握って近くに出かけ、外で食べる楽しさを味わうなどの工夫もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由に入浴してもらうようにはしていたが、入浴の順番や受診日との兼ね合いなどでトラブルが多かった為、利用者と相談のうえ、入浴表を作成したところトラブルもなくスムーズに行えるようになった。少しでも利用者一人ひとりの気持ちを尊重できるよう、随時の入浴希望や、汚れたときのシャワー浴等すぐに対応ができるような体制作りを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	風船バレー大会への出場や地域の文化祭への作品の出展、料理作りなどを通し、やりがいや生きがい、達成感を感じてもらえるように支援している。また、畑があり昔作っていた野菜作りを楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、自宅など、利用者の希望についてはそれぞれに対応しており、天気の良い日は、みんなでおいごりを作って外出したり、車で花見などに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけておらず、外出などは、利用者一人ひとりの希望に添って支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は、防火管理者講習を受講しており、地域の消防団にも入り、地域の消防活動への協力を行うとともに、訓練を日ごろより行い、地域との連携体制が十分取れている。また、防災訓練や消火器、通報装置の点検も定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューを作成する際に、利用者が食べたいもの、好きな料理などを聞き取り、メニューに反映できるようにしている。また、法人内の栄養士のアドバイスを参考にしながらメニューを検討しており、食事の摂取量や状況を毎食記録し、健康状態の把握の目安にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、自由にくつろげるようにソファや椅子を配置しているほか、ピアノがあったり、写真や利用者の手作り作品などを飾ったりして、家庭的で、馴染みやすい雰囲気作りを行っている。また、季節ごとにクリスマスツリーやお雛様などを飾って、季節感を出す工夫も施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長線として、違和感の無い生活が継続できるように、利用者それぞれの馴染みの物品を持参できるように配慮している。また、運搬手段に困るようなたんす等の大きいものは、職員がトラックで利用者の自宅に向き運搬するなどの支援をしている。		